

発行：愛知県社会保障推進協議会

TEL:052-889-6921 FAX:052-889-6931

E-mail : syahokyo@airoren.gr.jp

ホームページ <http://syahokyo.airoren.gr.jp/>

青空のもと 2670人

5月1日 メーデー テレビ全5局が報道

第94回愛知中央メーデー

白川公園に1800人、愛知県内6地域に870人が参加



愛知社保協、署名4種類 241筆集約 5月1日(月)愛知中央メーデーは白川公園の会場に1800人が参加し集会とデモ行進が行なわれた。



愛知社保協は、開始前の署名宣伝行動を行ない、32名の参加で介護改善署名59筆、軍事予算拡大よりも社会保障の充実を署名66筆、歯科署名44筆、医労連の増員署名72筆を集約した。

集会では、西尾美沙子実行委員長が挨拶。「四半世紀にわたって賃金が上がらない異常な実態を可視化し、賃上げは当たり前の

世論を作ってきた。愛知でもこれまでに10組合19職場203人がストライキに突入した」等紹介した。

また、非正規の仲間、看護の現場、「子どもたちにもう一人保育士を」訴える保育の現場からそれぞれ報告し、参加者からも大きな拍手と歓声でエールが送られた。

中でも、名市大の看護師大崎さんは、「どこの病院でもギリギリの人数で夜勤を回している。自分の生活を犠牲にして夜勤をしている。看護師が安心して、出産・子育て、介護をしながら働けるようにしたい。夜勤ができないなら退職をと強要された事例、どこの病院にもあるのでは。名市大病院の看護師が、この問題で裁判を起こした。全国の看護師の職場改善をめざす」と発言し、支援を訴えた。

その後、集会参加者は2つのコースに別れ、名古屋市中区栄交差点までデモ行進を行なった。



いのちと暮らしを守るなんでも相談会

全国総呼数 8,617、完了呼数 1,628(18.9%)

愛知総呼数 1,079、完了呼数 135(12.6%)の相談、電話鳴り止まず



4月30日のいのちと暮らしを守るなんでも相談会が全国一斉に取り組みました。愛知では、労働会館ホースを会場に、36人の相談員が待機し、相談を受けた。開始時間の10時から、5本の電話が鳴り続ける。相談の内容も深刻なものが多く、相談の時間も長い。

「生活が苦しく食料品・雑貨なども買えない。スーパーで廃品になった野菜を拾ってきて食べている」「生活保護を受けているが昨日から何も食べていない」「年金は月額7万円、家賃2万5千円で生活が苦しい。82歳、仕事をしたいが年齢で断られる。外食はしたことがない」「次の年金支給日まで待てない。サラ金でお金を借りたいが、アドバイスが欲しい」など。相談者は圧倒的に高齢者。物価高と年金の引き下げなどで生活困窮が一段と進んでいる事が浮き彫りになった。

今回、食料の提供も準備され、23人が利用した。中には、「2時間かけて自転車で来た」人もいた。

コロナが5類に変更されることで、それまでの支援がなくなる。コロナ時の借り入れの返済のめどもたたないなど、表面に現れない問題が山積みになっている。

また、この日にむけ事前にマスコミへの取材協力をお願いを行なった。当日はNHKが早朝から全国ネットで報道、愛知には10時からの取材に入り昼と夕方に放送された。マスコミ各社の協力で、相談者に情報を届けることができた。感謝し今後の協力もお願いしたい。愛労連ニュースNO274より

5月3日憲法記念日 市民のつどい

1400人が参加、終了後のデモ行進300人で

5月3日愛知憲法会議は、憲法施行76周年市民のつどいを名古屋市公会堂で開催した。「憲法と生きる～多様性のある社会へ」をテーマに、フォトジャーナリストの安田奈津紀氏が記念講演。「入管法の改定が進められているが、外国人の監視を強化し、差別化を図る法案で通過させてはいけない。自身の生き立ちの中で、在日の父親のこと、絵本を読み聞かせた母親のこと、海外での様々な活動や難民生活」など語り、ともに生きるとは何かを問いかけた。

この日医労連は、会場前で署名を行い、6人で230筆を集約があった。